

オリコンサル・東芝 EVバスの実証運行開始 地球温暖化対策 環境省実証研究事業を推進
港区「ちいばす」路線活用

EVバスの実証運行開始

地球温暖化対策 環境省実証研究事業を推進

港区「ちいばす」路線活用

オリコンサル・東芝

オリエンタルコンサルタンツと東芝は、既往のコミュニティバスを「EV（電気自動車）化」する実証事業を、環境省の「地球温暖化対策技術開発・実証研究事業」により12年度から3か年の予定で進めており、東京都港区で運行するコミュニティバス「ちいばす」の路線を活用し、1日から実証運行を開始した。開始に先立ち、1月31日には、東京都港区の芝公園で出発式を執り行った。

事業概要について、事業名称は「EVバス早期普及に向けた長寿命電池による5分間充電運行と電池リユースの実証研究」。実証主旨は、①低炭素型公共交通として、コスト面を含め、社会実装可能なEVバスであることの実証する②出力不足となった蓄電池をリユースし、定置用蓄電池「スマートバッテリー」の実用性を実証する一となっている。

2年目となる今年度は、これまで、東京都港区で運行するコミュニティバス「ちいばす」の路線を活用して、EVバスの試験走行を行っており、超急速充電システムとの連続的使用によるデータ蓄積、交通運用プランの改善、環境負荷低減効果の評価などを進めてきた。これらの結果が良好なことから、「ちいばす」の田町駅・新橋駅間の「芝ルート」において、1日から一般乗車でも運行を開始した。期間は3月14日まで。



EVバス「ちいばす」の試験走行を行うオリコンサル・東芝のEVバス。芝公園で出発式が行われた。

出発式の中で、近藤弘和東芝社会インフラシステム事業部長が「安全、かつスピーディーに実証運行を進めていく」と語り、野崎秀則オリエンタルコンサルタンツ社長は



港区EVバス 実証運行記念式典。左からオリコンサル・東芝の代表者ら。背景には「EVバス」の看板が掲げられている。

「この取り組みなどを通じて、安全、安心、快適な公共交通を検討し、社会に貢献すること」述べた。出発式ではその他、テープカットなどが行われた。

EVバスは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの輸送インフラなどとして、今後更なる導入が見込まれている。オリエンタルコンサルタンツは、公共交通を主とした低炭素モビリティ事業の拡大、更にスマートコミュニティ創造成業拡大に向けて、低炭素型公共交通の普及を図るためのEV等の技術特性に応じた交通運用プランの構築、低炭素型公共交通を円滑かつ効果的に運用するための道路などの都市空間設計、インフラ整備、低炭素型公共交通の社会浸透を図るための法規制等への包括的対応などに着目し、優れた技術を保有する異業種企業等との連携を深めながら、国内外での交通

ソリユーション事業、スマートコミュニティ創造成業の拡大を図っている。EVバスに置き換えた場合をシミュレートし、実

運用に想定される課題を抽出し、その対応策の検討などを行う。道路などの都市空間設計、インフラ整備では、充電システム設置イメージを検討し、必要な道路、都市空間設計等の知見を整理する。

このほか、環境負荷低減効果の検討、顧客（利用者）バス運行会社、バス事業者（主体）のニーズの具体的な把握などにも取り組む。